

国立大学法人
浜松医科大学
概要 2013

National University Corporation
Hamamatsu University School of Medicine



目次

建学の理念等	1
学長あいさつ	2
教育目標	3
沿革	4
組織	7
歴代学長・役員等	8
職員、学生等	12
学内共同教育研究施設	18
国際交流	21
附属図書館	22
地域・社会貢献	23
医学部附属病院	25
外部資金受入れ状況	31
財務、土地及び建物	32
配置図	33
案内図	34

平成25年度学事

4月8日	入学式
5月10～11日	滋賀医科大学との交流会
6月7日	開学記念日
7月下旬～8月	夏季休業
10月1日	医学科第2年次後学期編 入学及び大学院医学系研 究科（博士課程）入学式
10月24日	解剖体慰霊祭
11月2～3日	医大祭
12月下旬～1月上旬	冬季休業
1月18～19日	大学入試センター試験
2月25～26日	前期日程入学試験
3月12～13日	後期日程入学試験
3月17日	学位記・修了証書授与式

建学の理念

第1に優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、第2に独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、第3に患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する。

目的及び使命

浜松医科大学は、医学・看護学の教育及び研究の機関として、最新の理論並びに応用を教授研究し、高度の知識・技術及び豊かな人間性と医の倫理を身に付けた優れた臨床医・看護専門職並びに医学研究者・看護学研究者を養成することを目的とし、医学及び看護学の進展に寄与し、地域医学・医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康増進並びに福祉に貢献することを使命とする。



ごあいさつ



浜松医科大学長

中 村 達

NAKAMURA Satoshi

浜松医科大学は、昭和49年（1974）に設立され、以来39年余り経ちました。平成16年4月に法人化され、国立大学法人浜松医科大学に改称しました。建学の理念は変わりなく、「優れた臨床医と独創力に富む研究者を養成し、独創的研究並びに新しい医療技術の開発を推進し、患者第一主義の診療を実践して地域医療の中核的役割を果たし、以て人類の健康と福祉に貢献する」ことを目標として、ますます発展してきているところです。

本学は、医学科、看護学科および助産学専攻科を有する単科大学です。大学院医学系研究科では、さらに専門知識を高めるため博士課程と修士課程を開設しています。学問をするに相応しい環境を整備してきました。現在、10年、20年先を見据えたカリキュラムの改定に取り組んでいます。本学の卒業生は優秀で、国家試験の合格率は高く、多くの分野で活躍しています。

大学は、研究面において知の拠点としての役割が期待されています。本学は、光医学の基礎的、臨床的研究分野に力を注いでいる点の特徴で、企業と共同研究や交流を深め、近隣の世界的な企業と共同でたくさんの研究が進んでいます。これらの研究のためにメディカルフォトンクス研究センターが活躍しており、質量顕微鏡、MRI、MD-CT、さらにサイクロトロンおよびポジトロンCT（PET-CT）などを備えています。極微弱光を検出する光技術を活用し、光の分野でマイクロからマクロの領域まで、病態の診断研究、薬物動態などの研究および創薬等を目指すなど、最新の研究成果を世界に発信しています。臨床研究においても、手術ナビゲーターなどの医療機器の開発、PET-CT装置の開発などが行われています。ゲノム関連の研究、子どものこころの発達研究も注目されていて、これらの研究は国の支援を受けて、産学官連携の研究拠点を学内に構築しているところです。創薬から臨床応用の過程で必須な臨床試験を行うことができる探索的臨床研究施設を置き、創薬分野にも貢献しています。

医学部附属病院は、浜松市周辺の地域医療に貢献するべく開放型共同診療を行う、地域に根ざした病院です。病院の病棟は最近新築され、移転しました。外来棟の改修は間もなく終わります。本院は特定機能病院であり、最後の砦的な病院を目指し、高度な医療のできる診断・治療医療機器および技術、人材を備えて行き届いたサービスを提供するよう頑張っています。静岡県は人口が370万人超で医師不足が深刻となっています。本学の卒業生は約半数が静岡県内に定着していますが、それでも医師不足は深刻な状態にあります。臨床研修病院として地域の中核的役割を担い、今後さらに県内に定着する医師を増やし、地域に貢献することを目指して参りますので、本学に対し温かいご指導とご支援をお願い申し上げます。



■教育目標

医学部医学科

自学自習の態度・研究心の育成、人間性・倫理性の養成、国際性の習得およびプロフェッショナリズム（コミュニケーション能力、倫理観等）を身につけた人材の育成を目指しています。

医学部看護学科

生命の尊厳を尊重する倫理観と豊かな人間性、科学的知識に裏付けられた看護実践能力をもつ看護専門職の育成を目指しています。

大学院医学系研究科医学専攻（博士課程）

- 1.研究者としての倫理と誠実な人間性を養う。
- 2.国際的な視野を持ち、豊かな知性と教養を身につける。
- 3.問題発見能力を身につける。
- 4.医学・医療に関する高度の専門的知識と技術に基づく問題解決能力を身につける。
- 5.学術論文の作成能力を身につける。
- 6.生涯にわたり自立して学問を探究する姿勢を養う。

大学院医学系研究科看護学専攻（修士課程）

- 1.特定の専門分野での看護実践の場における研究活動を通じて、高度な専門的知識と技術の向上・開発を図る能力を修得する。
- 2.看護学教育と実践活動の場において、専門性の高い教育的機能を果たす能力を修得する。
- 3.看護実践を通じて、専門性と倫理観に基づくケアの提供と研究を行える能力を修得する。
- 4.看護の専門領域に関わる新しい課題にチャレンジできる高度な能力を修得する。
- 5.文化的、社会的背景を考慮して健康問題を捉え、国内外で活躍できる高度な能力を修得する。

助産学専攻科

- 1.リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点に立って女性のライフステージ各期の健康課題に対応する能力を習得します。
- 2.人間や環境への思いやりを大切に、助産師としての責任と自覚を持ち、母子およびその家族や地域の人々と良好な信頼関係を築くことができる能力を習得します。
- 3.変動する社会のニーズや科学、技術の進歩に対応できる能力と科学的根拠に基づいた質の高い専門的知識・技術および実践能力を習得します。
- 4.母子保健のニーズを助産師として敏感に捉え、保健・医療・福祉チームとの連携を図り、地域社会に貢献できる能力を身につけます。
- 5.国際化する社会において、異なった文化圏の人々と交流をもち、助産師の援助を必要とするこれらの人々のニーズに対応できる国際的視点を身につけます。
- 6.助産師としてのアイデンティティを育み、生涯を通して知的好奇心をもって研鑽することができる能力を習得します。

沿革

昭和48年～	
昭和48年	9月10日 ●静岡大学国立医科大学創設準備室設置
昭和49年	6月7日 ●浜松医科大学設置 医学部医学科、附属図書館及び事務局設置
	●医学部に8講座（解剖学第一、生理学第一、生化学第一、病理学第一、微生物学、内科学第一、外科学第一、放射線医学）、9学科目（倫理学、心理学、法学、数学、物理学、化学、生物学、英語、ドイツ語）開設
	7月4日 ●医学部医学科第1回入学式
昭和50年～	
昭和50年	3月29日 ●講義実習棟竣工
	4月1日 ●附属病院創設準備室設置 医学部に7講座（解剖学第二、生理学第二、病理学第二、薬理学、内科学第二、産婦人科学、小児科学）開設
昭和51年	3月25日 ●福利施設棟竣工
	3月27日 ●体育館竣工
	5月10日 ●医学部に7講座（衛生学、公衆衛生学、寄生虫学、法医学、外科学第二、整形外科、眼科学）開設
	12月11日 ●第1回解剖体慰霊祭
昭和52年	3月25日 ●基礎臨床研究棟竣工
	3月30日 ●R1動物実験施設、管理棟及び臨床講義棟竣工
	4月18日 ●医学部附属病院設置
	●医学部に6講座（内科学第三、精神神経医学、皮膚科学、泌尿器科学、耳鼻咽喉科学、麻酔学）開設
	●医学部附属病院に15診療科（第一内科、第二内科、精神科神経科、小児科、第一外科、第二外科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、眼科、耳鼻咽喉科、産科婦人科、放射線科、麻酔科、歯科口腔外科）設置
	●医学部附属病院中央診療施設等（検査部、放射線部、手術部、材料部）設置
	●薬剤部・看護部設置
	11月28日 ●医学部附属病院の一部が竣工し、外来診療を開始
	12月20日 ●医学部附属病院竣工
昭和53年	3月30日 ●廃棄物廃水処理施設竣工
	4月1日 ●医学部に2講座（生化学第二、脳神経外科学）開設
	●医学部附属病院に2診療科（第三内科、脳神経外科）設置
	●廃棄物廃水処理センター設置
	5月25日 ●慰霊塔除幕式
	11月15日 ●附属図書館竣工
昭和54年	3月30日 ●プール及び福利厚生施設 職員会館（半田山会館）竣工

昭和54年	4月1日 ●医学部附属動物実験施設設置
	12月8日 ●武道館竣工
昭和55年	3月26日 ●医学部医学科第1回卒業式
	4月1日 ●大学院医学研究科博士課程（形態系専攻、生理系専攻、生化学専攻、生態系専攻）設置
	4月26日 ●大学院医学研究科博士課程第1回入学式
昭和56年	4月1日 ●医学部附属実験実習機器センター設置
昭和59年	2月18日 ●開学10周年記念式典
	3月26日 ●大学院医学研究科博士課程第1回学位記授与式
	4月1日 ●医学部に講座（歯科口腔外科学）開設

昭和60年～

昭和60年	5月17日 ●保健管理センター設置
昭和62年	12月5日 ●医学部附属病院開院10周年記念式典
昭和63年	5月25日 ●医学部附属病院中央診療施設等（病理部）設置
	10月20日 ●基礎・臨床研究棟別館竣工

平成元年～

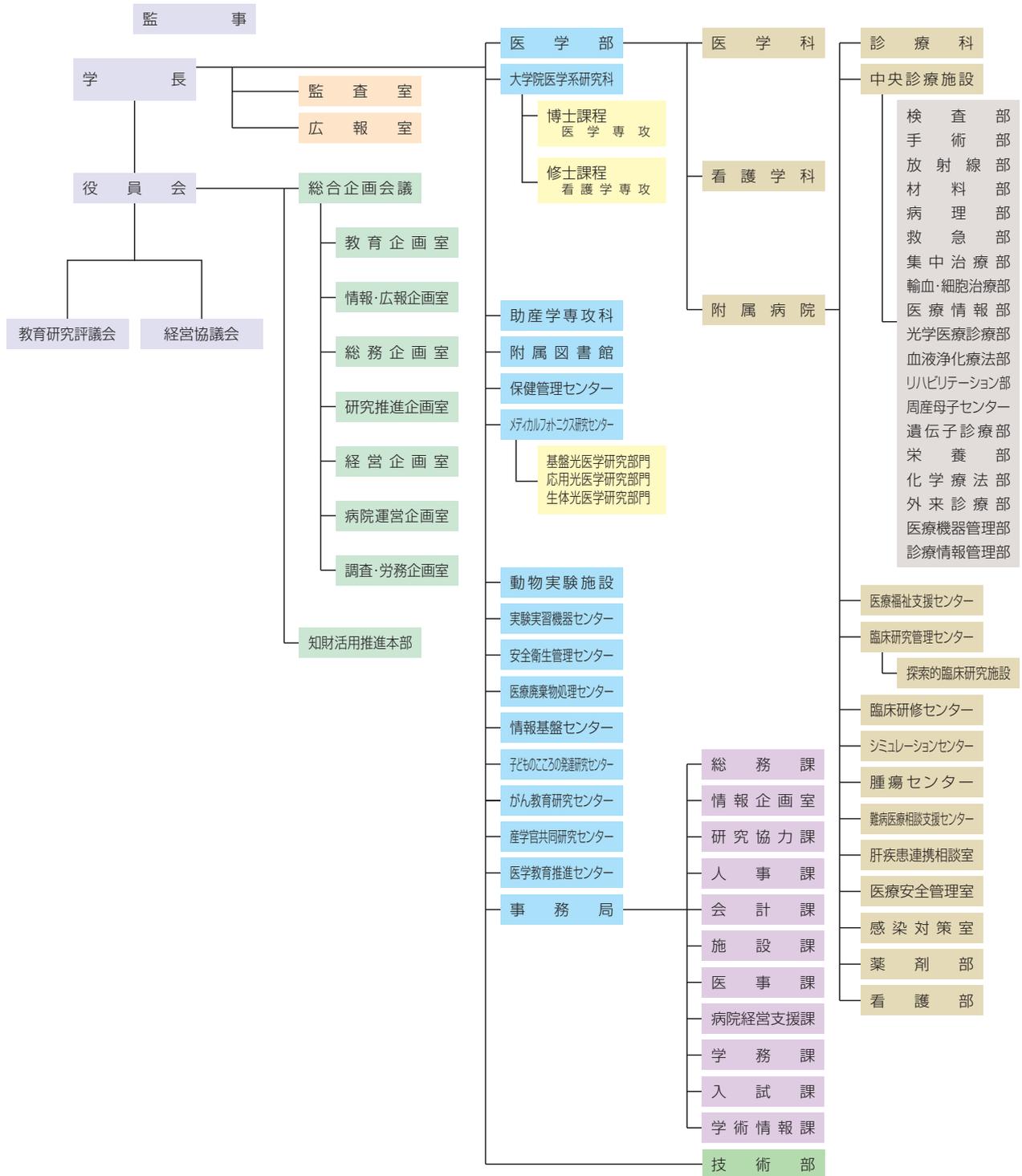
平成元年	6月28日 ●医学部に講座（臨床検査医学）開設
	10月1日 ●医学部にメディカルホトニクス講座（寄附講座）開設
平成2年	3月20日 ●MRI-CT装置棟竣工
	6月8日 ●医学部に学科目（日本語・日本事情）開設
	●麻酔学講座を麻酔・蘇生学講座に名称変更
	●医学部附属病院麻酔科を麻酔科蘇生科に名称変更
平成3年	4月12日 ●量子医学研究センター設置
	●医学部附属病院中央診療施設等（救急部）設置
平成5年	4月1日 ●医学部附属病院中央診療施設等（集中治療部）設置
	6月17日 ●廃棄物廃水処理センターを医療廃棄物処理センターに名称変更
	10月1日 ●医学部に臨床薬理学講座（寄附講座）開設
平成6年	5月20日 ●医学部附属病院中央診療施設等（輸血部）設置
	6月7日 ●開学20周年記念式典
平成7年	4月1日 ●医学部看護学科設置
	●医学部に学科目（生命科学）開設
	4月25日 ●医学部看護学科第1回入学式
	6月7日 ●医学部看護学科設置記念式典
	9月27日 ●情報処理センター設置

平成8年	3月25日	●国際交流会館竣工	平成16年	4月 1日	国立大学法人浜松医科大学設立
	4月 1日	●医学部看護学科に3講座（基礎看護学、臨床看護学、地域看護学）開設 ●医学部に学科目（情報科学）開設 ●医学部附属病院中央診療施設等（医療情報部）設置			●大学院医学系研究科博士課程の専攻を、光先端医学、高次機能医学、病態医学及び予防・防御医学に変更 ●医学部附属病院中央診療施設の「医療福祉支援センター」及び「治験管理センター」を医学部附属病院の「医療福祉支援センター」及び「臨床研究管理センター」に改組
平成9年	4月 1日	●医学部附属病院中央診療施設等（光学医療診療部）設置			●医学部附属病院に臨床研修センター及び医療安全管理室設置
	7月28日	●看護学科棟の一部が竣工			●事務局総務部の「庶務課」を「総務課」と「人事課」に改組し、業務部の「医事課」を「医療サービス課」に、「教務部」を「学務部」に改め、業務部に「病院管理室」及び入学主幹を廃し、「入試課」を設置
	11月27日	●医学部附属病院開院20周年記念式典			●事務局総務部の「庶務課」を「総務課」と「人事課」に改組し、業務部の「医事課」を「医療サービス課」に、「教務部」を「学務部」に改め、業務部に「病院管理室」及び入学主幹を廃し、「入試課」を設置
平成10年～					
平成10年	2月16日	●看護学科棟竣工			
	3月30日	●弓道場竣工		11月13日	●開学30周年記念式典
	4月 1日	●医学部医学科に講座（臨床薬理学）開設 ●医学部附属病院中央診療施設等（血液浄化療法部）設置 ●医学部附属病院に2診療科（循環器科、心臓血管外科）設置	平成17年	4月 1日	●医学部一般教育等の12学科目（倫理学、心理学、歴史学、社会学、数学、物理学、化学、生物学、英語、日本語・日本事情、生命科学、情報科学）を「総合人間科学講座」に改組 ●医学部医学科の「解剖学第一講座」及び「解剖学第二講座」を「解剖学講座」に改組 ●医学部医学科の「衛生学講座」及び「公衆衛生学講座」を「健康社会医学講座」に改組
平成11年	3月26日	●医学部看護学科第1回学位記授与式			●医学部附属病院中央診療施設（栄養部）設置
	4月 1日	大学院医学研究科を大学院医学系研究科に名称変更し、修士課程（看護学専攻）設置 ●医学部附属病院中央診療施設等（リハビリテーション部）設置			●事務局の「業務部」を「病院部」に改め、「施設課」を総務部に編入
	4月26日	●大学院医学系研究科修士課程第1回入学式		5月25日	●医学部附属病院中央診療施設（化学療法部）設置
	12月24日	●光量子医学研究センター竣工			●医学部附属病院に外来化学療法センター設置
平成12年	4月 1日	●事務局に教務部入学主幹及び総務部情報企画室設置		7月 1日	●医学部附属病院新生児強化治療室（GCU）開設
平成13年	3月27日	●大学院医学系研究科修士課程第1回学位記授与式	平成18年	4月 1日	●医学部医学科の「微生物学講座」及び「寄生虫学講座」を「感染症学講座」に改組 ●子どものこころの発達研究センター設置
	4月 1日	●医学部附属病院中央診療施設等（治験管理センター）設置 ●光量子医学研究センター改組			●医学部附属病院に診療科（心療内科）設置
	12月18日	●探索的臨床研究施設竣工		7月 1日	●医学部附属病院中央診療施設（外来診療部）設置 ●監査室設置
平成14年	4月 1日	●医学部医学科に講座（救急医学）開設 ●医学部附属病院中央診療施設等（周産母子センター）設置			●総務部総務課に「研究協力室」設置
	9月 1日	●医学部附属病院中央診療施設等（遺伝子診療部）設置		10月 1日	●医学部附属病院に診療科（臨床薬理内科）設置 ●医学部附属病院に腫瘍センター設置
	10月 1日	●医学部医学科2年次後期編入学第1回入学式			
	11月 1日	●医学部附属病院に診療科（リハビリテーション科）設置	平成19年	1月 1日	●分子イメージング先端研究センター設置 ●事務局病院部に「病院再整備推進事務室」設置
平成15年	3月 1日	●医学部附属病院新生児特定集中治療室（NICU）開設		1月23日	●医学部附属病院新病棟着工
	4月 1日	●医学部附属病院中央診療施設等（医療福祉支援センター）設置			
	9月 3日	●21世紀COEプログラムに「メディカルフォトンクス」が採択			

平成19年	2月 1日	●医学部附属病院に診療科（形成外科）設置	平成24年	4月 1日	●大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連 合小児発達学研究科を、大阪大学・金 沢大学・浜松医科大学・千葉大学・福 井大学連合小児発達学研究科に変更
	4月 1日	●医学部に分子診断学講座（寄附講座） 開設 ●医学部附属病院中央診療施設（輸血部） を（輸血・細胞治療部）に改める ●医学部附属病院に難病医療相談支援セ ンター設置			●医学教育推進センター設置 ●医学部附属病院にシミュレーションセ ンター設置
	5月 7日	●医大保育所「きらり」開所		5月28日	●事務局の「病院再整備推進事務局」を 廃止
	7月 1日	●医学部附属病院中央診療施設（医療機 器管理部）設置		6月 1日	●医学部医学部に講座（臨床腫瘍学）開 設
	10月 1日	●がん教育研究センター設置 ●医学部に地域医療学講座（寄附講座） 開設		8月 1日	●情報処理センターを情報基盤センター に改組
	11月28日	●医学部附属病院開院30周年記念式典			●広報室設置
			平成25年	4月 1日	●医学部附属病院に診療科（小児外科） 設置 ●医学部附属病院に肝疾患連携相談室及 び感染対策室設置
平成20年～					
平成20年	1月 1日	●分子イメージング先端研究センターに 「分子解剖学研究部門」開設			
	4月 1日	助産学専攻科設置			
平成21年	4月 1日	●大阪大学・金沢大学・浜松医科大学連 合小児発達学研究科に参加 ●事務局部制を廃止し、「研究協力課」、 「病院経営支援課」を設置			
	6月29日	●医学部附属病院新病棟竣工			
平成22年	4月 1日	●医学部附属病院中央診療施設（診療情 報管理部）設置			
	5月 1日	●医学部に児童青年期精神医学講座（寄 附講座）開設			
平成23年	4月 1日	●「光量子医学研究センター」と「分子 イメージング先端研究センター」を改 組・統合し、「メディカルフォトニク ス研究センター」を設置 ●産学官共同研究センター（PET-CT棟、 サイクロトロン棟）設置 ●医学部に臨床医学教育学講座（寄附講 座）開設			
	6月 9日	●医学部附属病院に診療科（病理診断科） 設置			
平成24年	1月 1日	●医学部に地域周産期医療学講座（寄附 講座）開設			
	4月 1日	●医学部医学部の「生理学第一講座」を 「神経生理学講座」、「生理学第二講座」 を「医生理学講座」、「生化学第一講座」 を「分子生物学講座」、「生化学第二講 座」を「医化学講座」、「病理学第一講 座」を「腫瘍病理学講座」、「病理学第 二講座」を「再生・感染病理学講座」、 「精神神経医学講座」を「精神医学講座」、 「耳鼻咽喉科学講座」を「耳鼻咽喉科・ 頭頸部外科学講座」、及び「救急医学 講座」を「救急災害医学講座」に名称 変更。 ●大学院医学系研究科博士課程の専攻（光 先端医学、高次機能医学、病態医学、 予防・防御医学）を医学専攻に改組			

組織

国立大学法人浜松医科大学



■歴代学長・役員等

歴代学長

吉利 和	昭和49年 6月 7日～昭和61年 3月31日
中井準之助	昭和61年 4月 1日～平成 2年 3月31日
川島 吉良	平成 2年 5月 1日～平成 8年 4月30日
山崎 昇	平成 8年 5月 1日～平成12年 4月30日
寺尾 俊彦	平成12年 5月 1日～平成22年 3月31日
中村 達	平成22年 4月 1日～

学長

中村 達

理事・副学長

教育・国際交流担当	小出 幸夫
評価・労務・安全管理担当	鈴木 修
財務・病院担当	瀧川 雅浩

理事

経営・産学連携担当 非常勤 晝馬 明

経営協議会

学長	中村 達
理事	鈴木 修
理事	瀧川 雅浩
理事	晝馬 明
副学長	高橋 清夫
浜松市文化振興財団代表理事	伊藤 修二
慶應義塾大学信濃町キャンパス事務長	上杉 道世
医療研修推進財団理事長	猿田 享男
静岡県医師会長	鈴木 勝彦
理化学研究所新興・再興感染症研究ネットワーク推進センター長	永井 美之
浜松信用金庫理事長	御室健一郎
三重県立看護大学長	村本 淳子

監事

山崎 勝康

非常勤 津田 紘

副学長

情報・広報担当 (附属図書館長)	中原大一郎
研究・社会貢献担当 (メディカルフォトンクス研究センター長)	蓑島 伸生
総務担当 (事務局長)	高橋 清夫

教育研究評議会

学長	中村 達
理事	小出 幸夫
理事	鈴木 修
理事	瀧川 雅浩
附属図書館長	中原大一郎
保健管理センター長	宮嶋 裕明
メディカルフォトンクス研究センター長	蓑島 伸生
動物実験施設長	渡邊 裕司
実験実習機器センター長	北川 雅敏
生物学・教授	針山 孝彦
神経生理学・教授	福田 敦夫
薬理学・教授	梅村 和夫
外科学第二・教授	今野 弘之
泌尿器科学・教授	大園誠一郎
基礎看護学・教授	永田 年

医 学 部

医学科 基礎講座（代表教員）

総合人間科学講座・倫理学	教授	森下 直貴
総合人間科学講座・心理学	教授	中原大一郎
総合人間科学講座・法学	教授	大磯義一郎
総合人間科学講座・数学	教授	野田 明男
総合人間科学講座・物理学	教授	笹倉 裕之
総合人間科学講座・化学	教授	藤本 忠蔵
総合人間科学講座・生物学	教授	針山 孝彦
総合人間科学講座・英語	教授	中安美奈子
総合人間科学講座・日本語・日本事情	教授	佐藤 清昭
総合人間科学講座・情報医学	教授	谷 重喜
解剖学講座（神経機能学分野）	教授	佐藤 康二
解剖学講座（細胞生物学分野）	教授	瀬藤 光利
神経生理学講座	教授	福田 敦夫
医生理学講座	教授	浦野 哲盟
分子生物学講座	教授	北川 雅敏
医化学講座	教授	三浦 直行
腫瘍病理学講座	教授	梶村 春彦
再生・感染病理学講座	教授	岩下 寿秀
薬理学講座	教授	梅村 和夫
感染症学講座（感染制御学分野）	教授	堀井 俊伸
感染症学講座（ウイルス学・寄生虫学分野）	教授	鈴木 哲朗
健康社会医学講座	教授	尾島 俊之
法医学講座	教授	渡部加奈子

看護学科（代表教員）

基礎看護学講座	教授	渡邊 泰秀
	教授	三浦 克敏
	教授	永田 年
	教授	片山はるみ
臨床看護学講座	教授	森 恵子
	教授	佐藤 直美
	教授	久保田君枝
地域看護学講座	教授	巽 あさみ
	教授	鈴木みずえ

医学科 臨床講座（代表教員）

内科学第一講座 (消化器・腎臓・神経内科学分野)	教授	宮嶋 裕明
	特任教授	金岡 繁
内科学第二講座 (内分泌・呼吸・肝臓内科学分野)	教授	須田 隆文
内科学第三講座 (循環器・血液・免疫リウマチ内科学分野)	教授	林 秀晴
精神医学講座	教授	森 則夫
外科学第一講座 (心臓血管・呼吸器一般(内視鏡)・乳腺外科学分野)	教授	椎谷 紀彦
外科学第二講座 (消化器・血管外科学分野)	教授	今野 弘之
脳神経外科学講座	教授	難波 宏樹
整形外科学講座	教授	松山 幸弘
皮膚科学講座	教授	戸倉 新樹
泌尿器科学講座	教授	大園誠一郎
眼科学講座	教授	堀田 喜裕
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座	教授	峯田 周幸
放射線医学講座	教授	阪原 晴海
麻酔・蘇生学講座	教授	佐藤 重仁
産婦人科学講座	教授	金山 尚裕
小児科学講座	教授	緒方 勤
歯科口腔外科学講座	教授	加藤 文度
臨床検査医学講座	教授	前川 真人
臨床薬理学講座	教授	渡邊 裕司
救急災害医学講座	教授	吉野 篤人
臨床腫瘍学講座	教授	大西 一功

寄附講座（代表教員）

地域医療学講座	特任教授	山岡 泰治
児童青年期精神医学講座	特任教授	杉山登志郎
臨床医学教育学講座	特任准教授	五十嵐 寛
地域周産期医療学講座	特任准教授	飯嶋 重雄
産婦人科家庭医療学講座	特任教授	杉村 基

助産学専攻科

教授 久保田君枝

附属図書館

館長 中原大一郎

保健管理センター

センター長 宮嶋 裕明

メディカルフォトンクス研究センター

センター長 蓑島 伸生

基盤光医学研究部門	教授	蓑島 伸生
	教授	瀬藤 光利
応用光医学研究部門 (寄附研究室)	教授	間賀田泰寛
	教授	山本 清二
	特任教授	岡崎 茂俊
生体光医学研究部門	教授	尾内 康臣

動物実験施設

施設長 渡邊 裕司

実験実習機器センター

センター長 北川 雅敏

安全衛生管理センター

センター長 鈴木 修

医療廃棄物処理センター

センター長 藤本 忠蔵

情報基盤センター

センター長 谷 重喜

子どものこころの発達研究センター

センター長 森 則夫

教授 武井 教使

がん教育研究センター

センター長 大西 一功

産学官共同研究センター

センター長 山本 清二

医学教育推進センター

センター長 梅村 和夫

監査室

監査室長 伊藤 昌治

広報室

広報室長 大谷 理恵

事務局

事務局長 高橋 清夫

事務局次長(総務担当) 神村 茂

事務局次長(病院担当) 神村 茂

事務局次長(教育・国際交流担当) 清野 俊哉

総務課長 田中 晃人

情報企画室長 田中 晃人

研究協力課長 大森 達郎

人事課長 大木 清造

会計課長 窪川 友行

施設課長 岩佐 智

医事課長 柘植 智司

病院経営支援課長 鈴木 康正

学務課長 栗田 清治

入試課長 太田 正人

学術情報課長 井上 恵美

医学部附属病院

病院長

瀧川 雅浩

副病院長

教育・研修担当 阪原 晴海

運営・管理担当 峯田 周幸

リスクマネジメント担当 今野 弘之

患者サービス担当 桑原 弓枝

診療科（科長）

一般内科		瀧川 雅浩
第一内科診療科群	教授	宮嶋 裕明
消化器内科	講師	杉本 健
腎臓内科	病院講師	安田日出夫
神経内科	教授	宮嶋 裕明
第二内科診療科群	教授	須田 隆文
内分泌・代謝内科	講師	沖 隆
呼吸器内科	教授	須田 隆文
肝臓内科	病院講師	小林 良正
第三内科診療科群	教授	林 秀晴
循環器内科	教授	林 秀晴
血液内科	教授	大西 一功
免疫・リウマチ内科	講師	小川 法良
精神科神経科	教授	森 則夫
小児科	教授	緒方 勤
第一外科診療科群	教授	椎谷 紀彦
心臓血管外科	教授	椎谷 紀彦
呼吸器外科	准教授	船井 和仁
乳腺外科	病院講師	小倉 廣之
一般外科（内視鏡外科を含む）	講師	和田 英俊
第二外科診療科群	教授	今野 弘之
上部消化管外科	教授	今野 弘之
下部消化管外科	教授	今野 弘之
肝・胆・膵外科	講師	坂口 孝宣
血管外科	講師	海野 直樹
脳神経外科	教授	難波 宏樹
整形外科	教授	松山 幸弘
皮膚科	教授	戸倉 新樹

泌尿器科	教授	大園誠一郎
眼科	教授	堀田 喜裕
耳鼻咽喉科	教授	峯田 周幸
産科婦人科	教授	金山 尚裕
放射線科	教授	阪原 晴海
麻酔科蘇生科	教授	佐藤 重仁
歯科口腔外科	教授	加藤 文度
リハビリテーション科	病院教授	美津島 隆
形成外科	病院教授	深水 秀一
臨床薬理内科	教授	渡邊 裕司
病理診断科	病院教授	馬場 聡
小児外科	特任准教授	川原 央好

中央診療施設（部長・センター長）

検査部	教授	前川 真人
手術部	教授	佐藤 重仁
放射線部	教授	阪原 晴海
材料部	教授	椎谷 紀彦
病理部	病院教授	馬場 聡
救急部	教授	吉野 篤人
集中治療部	特任准教授	土井 松幸
輸血・細胞治療部	病院教授	竹下 明裕
医療情報部	教授	木村 通男
光学医療診療部	教授	今野 弘之
血液浄化療法部	病院教授	加藤 明彦
リハビリテーション部	病院教授	美津島 隆
周産母子センター	病院教授	伊東 宏晃
遺伝子診療部	教授	前川 真人
栄養部	病院教授	加藤 明彦

化学療法部	教授	大西 一功
外来診療部	教授	大園誠一郎
医療機器管理部	教授	峯田 周幸
診療情報管理部	教授	木村 通男

医療福祉支援センター

センター長 特任教授 小林 利彦

臨床研究管理センター

センター長 教授 梅村 和夫

臨床研修センター

センター長 教授 阪原 晴海

シミュレーションセンター

センター長 特任准教授 五十嵐 寛

腫瘍センター

センター長 教授 大西 一功

難病医療相談支援センター

センター長 教授 宮嶋 裕明

肝疾患連携相談室

室長 病院講師 小林 良正

医療安全管理室

室長 教授 今野 弘之

感染対策室

室長 教授 前川 真人

薬剤部

部長 教授 川上 純一

看護部

部長 桑原 弓枝

職員、学生等

職員数

区 分		学長	理事	監事	教授	准教授	講師	助教	計	事務・技術 職員等	合計
事務局等	男	1	4	2					7	94	101
	女									41	41
医学部	男				48(4)	26(3)	1	71(17)	146(24)	8	154(24)
	女				8	8	5	21(3)	42(3)	3	45(3)
附属病院	男				4(1)	11(2)	36(3)	42(1)	93(7)	148	241(7)
	女						3(1)	8(3)	11(4)	585	596(4)
保健管理センター	男						1		1		1
	女									1	1
メディカルフォトンクス 研究センター	男				5(1)			5(3)	10(4)		10(4)
	女					1		1	2		2
動物実験施設	男					1		1	2	2	4
	女										
実験実習機器センター	男									8	8
	女									4	4
医療廃棄物処理センター	男									2	2
	女									1	1
子どものこころの 発達研究センター	男				1	2(2)	1(1)	5(5)	9(8)		9(8)
	女							1(1)	1(1)		1(1)
産学官共同研究センター	男										
	女									1	1
医学教育推進センター	男										
	女									1	1
知財活用推進本部	男							1(1)	1(1)		1(1)
	女										
合 計	男	1	4	2	58(6)	40(7)	39(4)	125(27)	269(44)	262	531(44)
	女				8	9	8(1)	31(7)	56(8)	637	693(8)
	合計	1	4	2	66(6)	49(7)	47(5)	156(34)	325(52)	899	1,224(52)

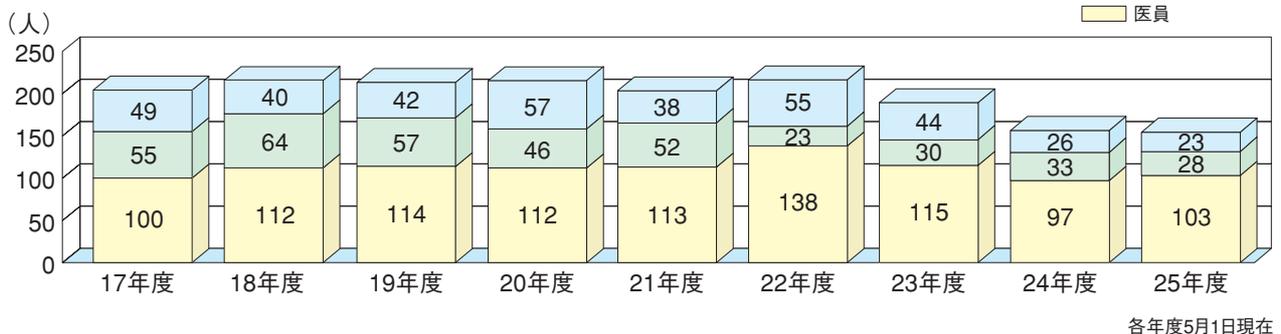
()内は特任教員を内数で示す

平成25年5月1日現在

	医 員	医員(研修医)	合 計
男	66	15	81
女	37	13	50
合 計	103	28	131

平成25年5月1日現在

●医員及び医員(研修医)の推移



各年度5月1日現在

医学部

医学科

高度の知識・技術及び豊かな人間性を身につけた臨床医並びに医学研究者を養成し、医学・医療の発展と人類の健康増進並びに福祉に貢献することを目的としています。

建学の理念に基づき、これまで多くの優れた臨床医を養成して静岡県はもとより全国各地の医療に貢献しつつ、最先端の研究も行っています。世界でも先駆的な研究の一例を挙げると、光を利用してがんを治療したり、光を用いて人体の機能を解析する新技術の開発があり、これの実践のための特別な研究センターを設けています。

また、卒業生は臨床医、医学研究者、医学教育者のみならず、産業医、医療福祉行政者などとしても活躍しており、活動分野は多岐にわたっています。



看護学科

看護の実践・研究・教育分野において国内外で活躍できる人材を育成することにより、看護学の発展と人類の健康増進並びに福祉に貢献することを目的としています。

本学では4年間の学部生活の間に学生が科学的考え方を身につけ、人への配慮ができる看護専門職に育つための教育を行っています。卒業生の中には本学大学院修士課程に進み、看護学教育・研究者への道を歩む者もいます。

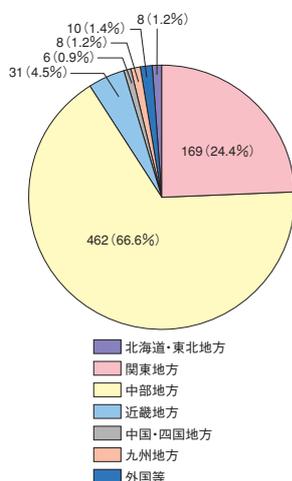
●入学定員及び現員

学 科		現 員	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
医 学 科	入学定員 120(5)	男 子	77	82	80 (4)	82 (2)	74 (4)	76 (5)	471 (15)
	収容定員 685(25)	女 子	42	39	44 (2)	40 (2)	32 (2)	26 (3)	223 (9)
		合 計	119	121	124 (6)	122 (4)	106 (6)	102 (8)	694 (24)
看 護 学 科	入学定員 70(10)	男 子	5	5	5 (1)	5 (1)			20 (2)
	収容定員 260(20)	女 子	62	56	59 (9)	63 (9)			240 (18)
		合 計	67	61	64 (10)	68 (10)			260 (20)

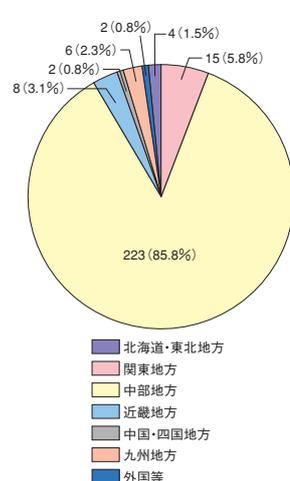
(注) (1) 医学科の()内は、第2年次後期編入学を内数で示す
(2) 看護学科の()内は、第3年次編入学を内数で示す

平成25年5月1日現在

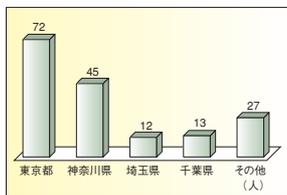
医学科地域別在学学生数割合



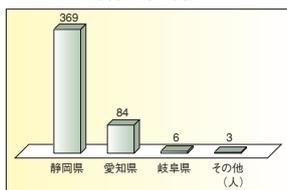
看護学科地域別在学学生数割合



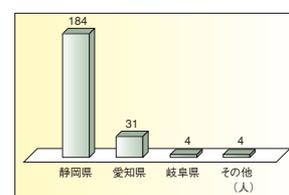
関東・甲信越地方の内訳



中部地方の内訳



中部地方の内訳

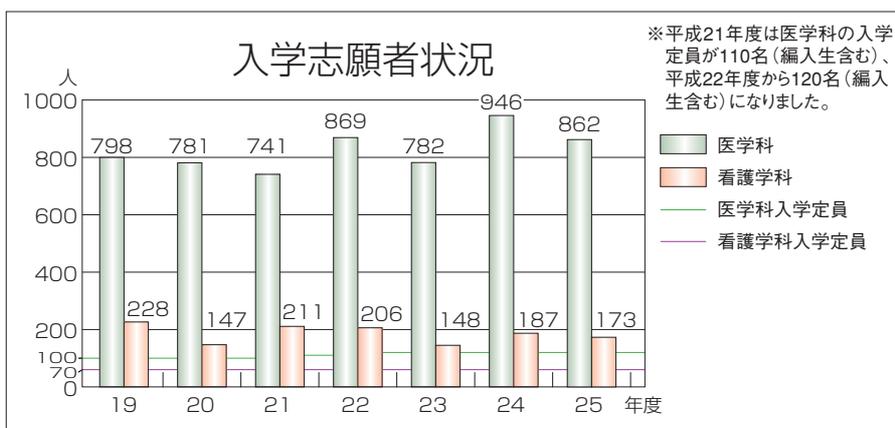


●入学志願者及び入学者数

区 分	医 学 科						看 護 学 科					
	入学志願者			入 学 者			入学志願者			入 学 者		
	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計	男子	女子	合計
平成19年度	490 (62)	221 (25)	711 (87)	72 (4)	23 (1)	95 (5)	16 (1)	179 (32)	195 (33)	4 (1)	57 (9)	61 (10)
平成20年度	460 (69)	219 (33)	679 (102)	70 (5)	25 (0)	95 (5)	8 (2)	105 (32)	113 (34)	2 (1)	58 (9)	60 (10)
平成21年度	409 (88)	196 (48)	605 (136)	73 (2)	32 (3)	105 (5)	13 (1)	161 (36)	174 (37)	4 (0)	58 (10)	62 (10)
平成22年度	502 (89)	247 (31)	749 (120)	80 (4)	35 (1)	115 (5)	19 (0)	164 (23)	183 (23)	5 (0)	57 (10)	62 (10)
平成23年度	394 (85)	262 (41)	656 (126)	73 (3)	42 (2)	115 (5)	12 (1)	118 (17)	130 (18)	6 (1)	55 (9)	61 (10)
平成24年度	503 (33)	385 (25)	888 (58)	76 (3)	39 (2)	115 (5)	7 (2)	154 (24)	161 (26)	3 (1)	57 (9)	60 (10)
平成25年度	511	351	862	73	42	115	13 (2)	143 (15)	156 (17)	4 (1)	56 (9)	60 (10)

(注) (1) 医学科の()内は、第2年次後期編入学を外数で示す
 (2) 看護学科の()内は、第3年次編入学を外数で示す

平成25年5月1日現在



●研究生数

	25年度
男子	5
女子	3

平成25年5月1日現在

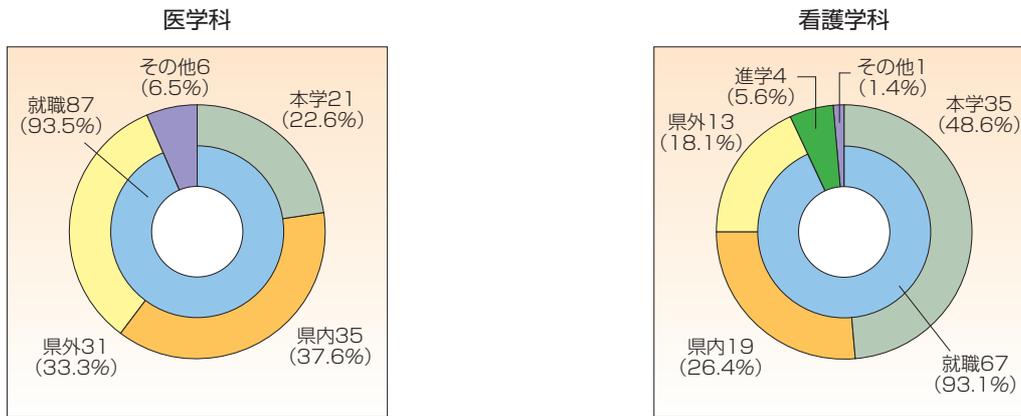


題字 初代学長 吉利 和

●卒業生数

区分	医学科							看護学科						
	S54~H19年度計	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	合計	H10~H19年度計	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	合計
男子	2,126	58	67	66	76	67	2,460	24	8	4	4	1	5	46
女子	743	39	35	31	26	26	900	662	61	65	65	67	67	987
合計	2,869	97	102	97	102	93	3,360	686	69	69	69	68	72	1,033

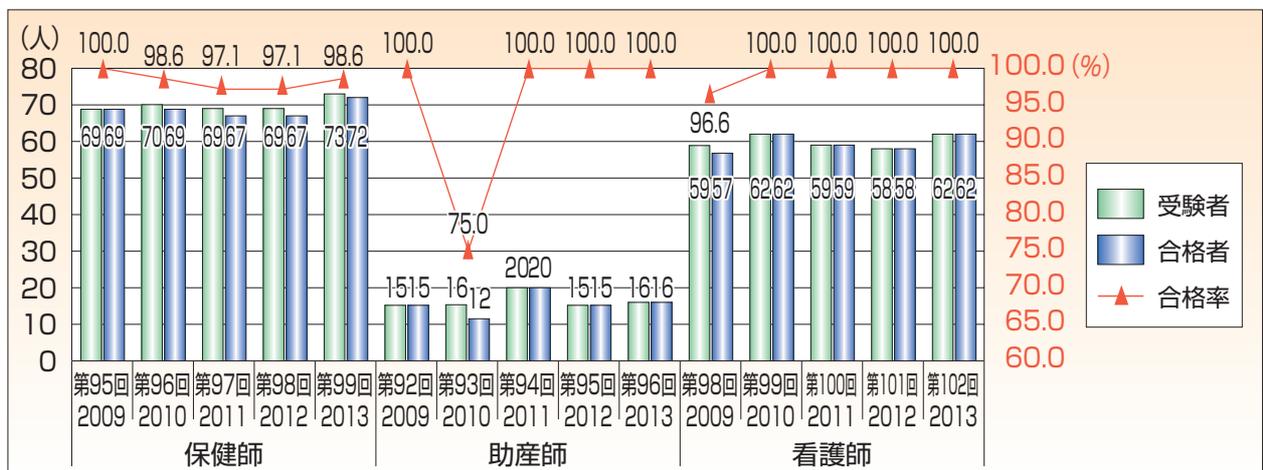
●平成24年度卒業生の進路状況



●医師国家試験合格状況

区分	新卒			既卒			総数			全国順位
	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	受験者	合格者	合格率	
第103回 2009	97	95	97.9	4	1	25.0	101	96	95.0	21
第104回 2010	102	96	94.1	4	2	50.0	106	98	92.5	24
第105回 2011	97	94	96.9	8	6	75.0	105	100	95.2	8
第106回 2012	102	100	98.0	3	3	100	105	103	98.1	2
第107回 2013	93	87	93.5	2	1	50.0	95	88	92.6	28

●保健師・助産師・看護師国家試験合格状況(既卒者を含む)

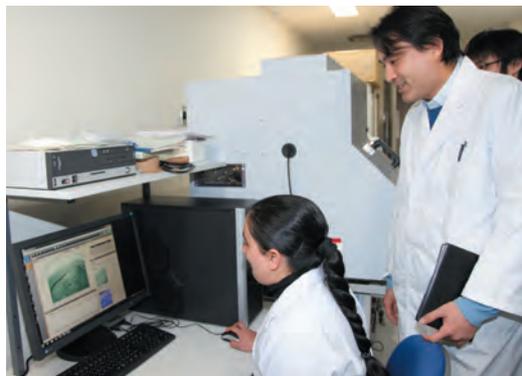


大学院医学系研究科

博士課程

大学院医学系研究科医学専攻(博士課程)は、国際的にリーダーシップを発揮できる基礎医学研究者と臨床研究医を養成することを目的としています。即ち、光先端医学を中心に幅広い専門分野の授業科目を履修することを基礎に、基礎研究者を目指す学生には高度の専門的知識と技術を身につけ、独創的な先端研究を遂行できる能力を養成します。

また、臨床研究医を目指す学生には、臨床研究を更に推進することができるような研究マインドを持ち、臨床の現場で広く求められる応用力を養成します。



修士課程

大学院医学系研究科看護学専攻(修士課程)では、これまで修得した専門的知識・技術を基盤に、科学的思考力、問題解決力、創造性と基礎的な研究能力を養い、高度な実践能力と倫理観を備えた高度専門職業人、教育者及び研究者を養成します。

●入学定員及び現員

修士課程

区 分		現 員	1年	2年	合 計
看護学専攻	入学定員 16	男 子	2	4(1)	6(1)
	収容定員 32	女 子	15	25(13)	40(13)
		合 計	17	29(14)	46(14)

()内は平成23年以前入学の長期履修者を内数で示す

平成25年5月1日現在

博士課程

区 分		現 員	1年	2年	3年	4年	合 計
光先端医学	※入学定員 11	男 子	—	—	7(1)	9(1)	16(2)
	※収容定員 44	女 子	—	—	6(1)	10(5)	16(6)
		合 計	—	—	13(2)	19(6)	32(8)
高次機能医学	※入学定員 5	男 子	—	—	3(1)	8(4)	11(5)
	※収容定員 20	女 子	—	—	2(1)	0	2(1)
		合 計	—	—	5(2)	8(4)	13(6)
病態医学	※入学定員 8	男 子	—	1(1)	8	18	27(1)
	※収容定員 32	女 子	—	0	4(1)	4	8(1)
		合 計	—	1(1)	12(1)	22	35(2)
予防・防御医学	※入学定員 6	男 子	—	0	2	2	4
	※収容定員 24	女 子	—	1(1)	3	2	6(1)
		合 計	—	1(1)	5	4	10(1)
医 学	入学定員 30	男 子	27(3)	25	—	—	52(3)
	収容定員 120	女 子	12(1)	7	—	—	19(1)
		合 計	39(4)	32	—	—	71(4)

()内は10月入学を内数で示す
※は平成23年度以前の定員を示す

平成25年5月1日現在

●入学者数

	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
博士課程（男子）	25	21	21	22	21	25	24
〃（女子）	8	10	12	4	11	7	11
修士課程（男子）	0	1	2	3	1	3	2
〃（女子）	16	14	15	14	15	12	15

平成25年5月1日現在

●学位授与者数

	S58~H18 年度計	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度
博士課程（医学）	494	21	35	28	27	26	24
論文博士（医学）	440	14	9	14	8	11	9
修士課程（看護学）	87	17	15	9	15	23	8

平成25年5月1日現在

●研究生数

	25年度
男子	24
女子	6

平成25年5月1日現在

助産学専攻科

国際人口開発会議提唱の「生涯にわたる女性の健康と性に関する権利」を基盤とした教育を行います。

母子およびその家族や地域の人々に寄り添い、対象のニーズに応え得る高度な診断能力、科学的根拠に基づいた質の高い助産技術と実践能力を身につけることにより、地域の周産期医療の充実、母子保健の発展に貢献できる人材を育成します。

●入学定員及び現員

区 分	定 員		現 員
	入学定員	収容定員	1年
助産学専攻科	16	16	16

平成25年5月1日現在

●平成24年度修了者の進路状況

修了者	就 職	
	県内	県外
16	6	10



■学内共同教育研究施設

■保健管理センター

TEL (053) 435-2158

センター長 宮嶋 裕明

学生・職員の健康の保持増進を図ることにより、学校教育や職場活動の円滑な実施とその成果の確保に資することを目的として、昭和60年に設置された。健康診断と事後措置及び健康相談、保健管理に関する調査・研究を行っている。また、医科大学という特殊性から感染対策（B型肝炎、ウイルス感染症等）にも力を入れている。心の健康の保持増進については、精神科や学内外の関連部署・施設等と連携しながら支援にあたっている。



■メディカルフォトリクス研究センター

TEL (053) 435-2390

センター長 蓑島 伸生 副センター長 間賀田 泰寛

【基盤光医学研究部門】

光イメージング研究室(2092) 光ゲノム医学研究室(2390)

システム分子解剖学研究室(2292)

【応用光医学研究部門】

分子病態イメージング研究室(2398) イノベーション光医学研究室(2391)

医学分光応用寄附研究室(浜松ホトニクス(株)寄附)(2235)

【生体光医学研究部門】

生体機能イメージング研究室(2466)

旧光量子医学研究センターと旧分子イメージング先端研究センターの統合により、平成23年4月1日に設置された。光とイメージングを医学に応用する研究の遂行と人材育成を目的としている。光・分子イメージングによる生命現象の探究、イメージング法を活用した診断技術と臨床診断用標識薬剤の開発、オミックス手法を活用した疾患原因追究、光による腫瘍の治療法の開発・改良等、多様な先端的研究が、培養細胞、動物、ヒト個体を対象として進行中である。

■動物実験施設

TEL (053) 435-2000

施設長 渡邊 裕司

昭和54年に設立された動物実験施設は、医学における基礎研究としての動物実験の場と動物実験に関する専門的知識を研究者に提供するとともに、実験動物学の授業や卒業論文研究を通じて教育にも貢献している。さらに、ヒト疾患モデル動物としての突然変異マウスを独自の作出方法を用いて開発し、研究者へ提供することにより実験動物科学としての一分野を推進している。最近ではコモンマウスモザイクの育種および繁殖に力を注ぎ、学内利用の推進を図っている。



■実験実習機器センター

TEL (053) 435-2300

センター長 北川 雅敏

実験実習機器センターは平成16年の法人化に伴い現在の形に改組された。本センターは中央機器分析室とRI施設、研究棟各階にある多様な共同実験室で構成されている。本センターは、日進月歩の生命科学研究に対応した、次世代DNAシーケンサー、高精度質量分析装置、各種イメージング装置、走査型電子顕微鏡等の多数の先端機器を有し、専門知識と技術を持った職員がこれらの研究機器による受託解析等を行い、本学の教育研究支援を担っている。

■安全衛生管理センター

TEL (053) 435-2187

センター長 鈴木 修

安全衛生管理センターは平成15年4月に設置され、安全衛生管理に関する全学的事項を企画・立案するとともに、教育・研究に伴って発生するおそれのある環境汚染、健康障害、事故及び災害に対する安全衛生管理の徹底を図ることを目的としている。

主な取組としては、労働安全衛生法等に基づく作業環境測定、学内巡視、局所排気装置の自主点検、薬品調査等、並びに職場における労働者の安全と健康の促進、快適な職場環境の確保などがある。



■医療廃棄物処理センター

TEL (053) 435-2159

センター長 藤本 忠蔵

医療廃棄物処理センターでは、大学の研究室や病院から排出される廃水を、活性汚泥や活性炭吸着などで適正に処理し、水質の分析を行ってから下水道に放流している。また、廃溶剤、廃酸、不要になった薬剤、廃棄実験器具などを回収し、適切な処理方法により分類してから廃棄物処理業者に処分を委託している。さらに、教職員・学生に対して、大学での廃水や医療系も含む廃棄物全般について分別処理方法の指導を行っている。

■情報基盤センター

TEL (053) 435-2182

センター長 谷 重喜

情報基盤センターは、学内のネットワーク、メールサーバ、大学HPなど各種基幹サーバ、情報系実習室、など、大学の情報基盤を提供、運営している。学内随所に無線LANのスポットが設置され、情報系実習室では教師と学生の双方向の画面提示や操作が可能となっている。今後も時代を先取りする情報基盤を提供していく。



■子どものこころの発達研究センター

TEL (053) 435-2331

センター長 森 則夫

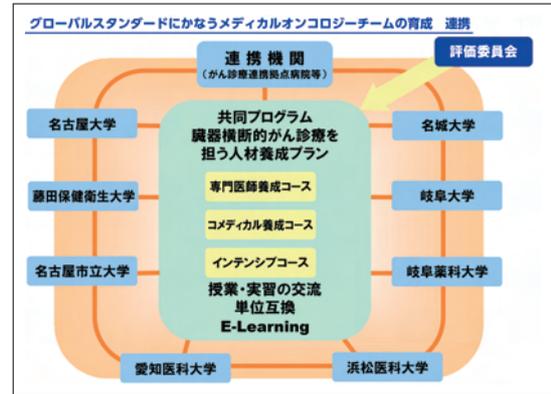
浜松医科大学、大阪大学、金沢大学、千葉大学、福井大学に設置された「子どものこころの発達研究センター」は、わが国における最高水準の子ども研究・教育・支援機関として発展を遂げている。本センターの目的は、知る『子どものこころの危機』の背景を探り、育む『こころの危機』をもつ子どもたちを支える実践的手法を開拓するとともに、5大学の連合小児発達学研究科（連合大学院）の教育活動を通じて＜子どものこころの専門家＞を育成することにある。

■がん教育研究センター

TEL (053) 435-2266

センター長 大西 一功

がん教育研究センターは、臓器横断的、職種横断的ながん診療を担う人材育成を行うとともに、がん領域の先端的な研究を推進することを目的として平成19年10月に設置された。本センターでは文部科学省の「がんプロフェッショナル養成プラン」を実施するため、本学大学院に名古屋大学等と連携して「がんプロフェッショナル養成コース」を開設し、博士課程4年間にがん臨床とがん研究の両者をバランスよく按分することによって、効率的に化学療法・緩和ケア・放射線治療に関する腫瘍専門医及び腫瘍専門薬剤師の養成を目指す。これには「臨床腫瘍コース」、「放射線医学コース」、「薬剤学コース」の3コースがある。大学院コース以外にも「インテンシブコース」があり、さらに高度な化学療法、放射線療法、薬剤学を実践を通して学ぶ事ができる。



■産学官共同研究センター

TEL (053) 435-2438

センター長 山本 清二

ものづくり地域「浜松」の技術力と産業開発力に「医療・医学」のシーズ・ニーズを加え「健康・医療産業」を創出・確立していく事業である、JST地域産学官共同研究拠点整備事業「はままつ次世代光・健康医療産業創出拠点事業」の中核施設として平成23年4月に設置された。サイクロトロン棟、PET-CT棟からなり、産学官共用設備を持つ。学内の研究用MRI、CT、動物用PETも管理し、小動物からヒトまでを対象としたイメージング装置を備えたユニークな施設である。対外的には産学官・医工連携のワンストップ窓口として活発に活動している。

■医学教育推進センター

TEL (053) 435-2843

センター長 梅村 和夫

医学教育推進センターは、医学及び看護学の教育等の改善のための諸活動を体系的に行い、教育の質の向上を図ることを目的に、平成24年4月に設置された。主な活動として、教育システム及びカリキュラム、PBL・チュートリアル教育、共用試験（CBT, OSCE）及びAdvanced OSCE、参加型臨床実習等に関するこの調査、研究、実施及び評価を行うこととしている。



国際交流

●外国人留学生

国名	大学院		合計
	国費	私費	
中国	0	12	12
バングラデシュ	0	5	5
ベトナム	0	1	1
パキスタン	1	1	2
インド	0	2	2
合計	1	21	22

平成25年5月1日現在

●国際交流協定・姉妹校

大学名等（国名）	締結年月日	協定等の内容
中国医科大学（中国）	1988. 4.29	姉妹校協定
慶北大学校医科大学（韓国） 慶北大学校看護大学（韓国）	1992. 9. 7 2005. 9.23	学術交流協定
上海交通大学医学院（中国） （旧：上海第二医科大学）	2000. 3.24	学術交流協定
フライブルク大学医学部 （ドイツ）	2003. 6.30	学術交流協定
河南中医学院（中国）	2003.12. 8	学術交流協定
ビャウイストク医科大学 （ポーランド）	2004. 4.19	学術交流協定
ダッカ大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
シャジャラル科学技術大学 （バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
ボンゴボンデュ セイク ムシブ 医科大学（バングラデシュ）	2004.11.12	学術交流協定
广西医科大学（中国）	2004.11.21	学術交流協定
ワルシャワ医科大学（ポーランド）	2010. 4. 1	学術交流協定
ルブリン医科大学（ポーランド）	2010. 4. 5	学術交流協定
デュッセルドルフ大学（ドイツ）	2012. 8. 9	学術交流協定
ハワイ大学（アメリカ）	2012. 9. 6	学術交流協定

平成25年5月1日現在

●国際交流会館の概要

区分	棟名	单身棟		世帯棟	
建築面積		206㎡		147㎡	
建物延面積		554㎡		567㎡	
室数		单身室 (14㎡)	20室	夫婦室 (40㎡)	6室
		ミーティングルーム (19㎡)	1室	家族室 (59㎡)	4室

第12回慶北-浜松合同医学シンポジウム
(平成24年9月浜松)

外国人留学生実地見学旅行（平成24年11月奈良）



国際交流のつどい（平成25年3月）



国際交流会館

■附属図書館

浜松医科大学附属図書館は、学術情報資料の収集・保存・提供の基盤センターであり、知的創造活動の拠点として学習・教育・研究支援機能を担っています。

印刷資料のほか、電子ジャーナルや各種データベース、本学の学術成果等を電子的に蓄積保存する学術機関リポジトリの提供など、電子図書館的機能を強化すると同時に、これらの学術情報資源等を十分に活用できるよう、学生・教職員を対象とした情報リテラシー教育の支援も行っています。

また、土・日開館の実施や近隣医療従事者への資料の貸出、県内外の病院等への文献複写提供サービスなど、地域へのサービスにも努めています。

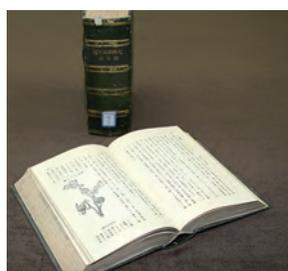
新たな図書館機能として、ディスカッションしながらの学習が可能なラーニング・コモンズを平成25年4月から開設し、静謐な閲覧スペースと併せて多様な学習環境を提供しています。



開館時間

平日 9:00～20:00
土・日曜日 10:00～17:00

本学構成員は、24時間入館可能な特別利用制度利用を申請できます。



貴重資料

明治11～12年に浜松医学校教官らが米国の医学書を翻訳出版した『七科約説』

●利用状況

入館者数	開館時間内			開館時間外			合計				
	学内者	125,833人	学外者	797人	学内者	37,581人	学外者	8人	学内者	163,414人	学外者
館外貸出冊数	図書			雑誌			視聴覚資料				
	8,070冊			457冊			165タイトル				
文献複写	受付数			依頼数			合計				
	4,524件			1,797件			6,321件				

平成24年度

●蔵書数

区分	和文	欧文	合計
図書	56,144冊	33,049冊	89,193冊
雑誌	1,251種	1,113種	2,364種
視聴覚資料等	1,386タイトル		

平成25年3月31日現在

●図書・雑誌受入数

区分	和文	欧文	合計
図書	2,678冊	257冊	2,935冊
雑誌	203種	104種	307種
視聴覚資料等	86タイトル		
電子ジャーナル	4,550タイトル		

平成24年度



ラーニング・コモンズ



ラーニング・コモンズAV視聴コーナー



閲覧室

■地域・社会貢献

浜松医科大学では、教育、研究に次いで、社会貢献を第三の重要な事業活動と位置づけ、これに対する取り組みを進めています。医科大学としての社会貢献の第一は、附属病院における医療活動です。外来診療、入院治療、救急処置、検査等、多数の活動をしています。地域社会に対する様々な支援事業が第二の活動で、相談会や市民・中高生に対する各種講座を開催するなどしています。第三の活動として、大学の中で考案された新しい技術を実際に使えるものとして企業に移転したり、専門能力を生かして企業の事業化を支援したり、共同研究をしたりする産学官連携事業があります。

●社会貢献事業への支援

本学における社会貢献活動を推進するため、教員等による活動実績に対して支援を行っています。平成24年度は「地域医療や公衆衛生に貢献する社会活動」7件、「地域教育に対する活動」12件を採択しました。

地域医療や公衆衛生に貢献する社会活動

活動名	対象	担当
弾性ストッキング・コンダクター浜松地区講習会	地域医療従事者	第二外科
平成24年度浜松医科大学看護学科社会貢献事業 特別講演会:急性期医療現場に認知症パーソン・センタード・ケアは導入できるか?	看護師、医師、保健医療福祉職員、学生等	地域看護学講座(在宅看護学)
人工透析患者における震災対策～広域搬送に備えて	透析患者、透析施設職員等	血液浄化療法部
HBC-Study 5周年記念の集い	母と子の浜松出生コホート研究参加者	子どものこころの発達研究センター
自治体等への保健活動・調査支援講座	自治体等職員	健康社会医学講座
緊急スクールカウンセラー派遣事業	福島県の小学校、中学校	児童青年期精神医学講座
在宅で人工呼吸器管理が必要な重度心身障害児者と家族への外出支援活動(さんぽ会)	重度心身障害児者及び家族、医療関係者、学生ボランティア	臨床看護学講座(小児看護学)

平成24年度

地域教育に対する活動

活動名	対象	担当
地域コメディカル学生・医療従事者に対する解剖学教育推進活動	地域コメディカル学生、医療従事者	解剖学講座(神経機能学分野)
やらまいかー生き物は面白い	高校生	基礎看護学講座(健康科学)
ひらめきときめきサイエンス	高校生	基礎看護学講座(健康科学)
講演会「何でも答えます!浜松へリコバクター学校」の開催	一般市民	臨床研究管理センター
市民公開講座 「血圧管理で健康長寿～慢性腎臓病にならない、悪くしない～」	一般市民	第一内科
静岡県子どもの精神保健フォーラム	子どもの精神保健に携わる関係者	精神医学講座
細胞医療実習を通じた医学へのマネージメント	中学生	輸血・細胞治療部
生物が見る世界 ～いくつもの目といくつもの世界～サマー・サイエンスキャンプ	高校生	総合人間科学講座(生物学)
日本固有種である「ニホンミツバチ」を教材とした地域貢献事業	中高生	総合人間科学講座(生物学)
アフリカツメガエルの中身を知り、カエルの発生を観察しよう	小中学生	医化学講座
市民公開講座「暑さに負けない体力作り」	小中学生及び保護者	医生理学講座
静岡県シニアサッカーフェスティバル in ECOPA 講演会「加齢とスポーツ～活性酸素と向き合う～」	スポーツ愛好者	麻酔・蘇生学講座

平成24年度

●産学官連携活動

日々の教育・研究・診療の中から生まれる多くの研究シーズ、知的財産、ノウハウ、暗黙知等を、「知」という大切な財産であると考えます。この「知」を、他大学や民間機関等と連携して社会に還元していく産学官連携活動を積極的に進めています。

活動名	連携相手先	担当
マイクロニードルのデリバリシステム構築	企業(浜松市)	皮膚科学講座
外来診療で使用できるレントゲン写真の3次元評価装置の開発	企業(浜松市)	整形外科
乳癌診断のための光マンモグラフィの開発と臨床評価	企業(浜松市)	放射線科、乳腺外科
近赤外線検出技術を用いた四肢リンパ圧自動測定装置の開発	企業(浜松市)	血管外科
レーザー血栓溶解治療システムの開発	企業(浜松市)、他医療機関	薬理学講座
自閉症乳幼児診断用の注視点検出装置の開発	企業(県外)、他大学	子どものこころの発達研究センター
酸化オスミウム(VIII)廃液のリサイクル技術の構築	企業(浜松市)	医療廃棄物処理センター
精神性疾患等の治療に貢献する次世代PET診断システムの研究開発	企業(浜松市)	メディカルフォトニクス研究センター
瞳関数制御による高度多機能光学顕微鏡の開発	企業(浜松市)、他大学	メディカルフォトニクス研究センター
顕微質量分析装置の実用化開発	企業(県外)、他大学	メディカルフォトニクス研究センター
低侵襲手術支援システムの実用化と臨床研究	企業(浜松市 他)、他大学	メディカルフォトニクス研究センター
デジタル制御技術を用いた普及型喉頭観察内視鏡システムの開発	企業(浜松市 他)	メディカルフォトニクス研究センター
次世代害虫駆除装置の開発	企業(県外)	総合人間科学講座(生物学)
凍結治療装置の実用化開発	企業(県外)	放射線部

平成24年度

●公開講座

平成24年度公開講座「災害時に役立つ医の知識」が全5回(7月下旬～8月下旬)にわたり開催され、毎回100名以上の受講者が熱心に聴講されました。

本公開講座は昭和54年から毎年開催しており、平成24年度で第34回目となりました。今後も地域の皆様のご期待に添えるような公開講座を開講し、大学の重要な使命の1つとして求められている地域社会への貢献に努めていきたいと考えています。



高校生の理科教育支援事業(ニホンミツバチの行動観察)



レントゲン写真の3次元評価装置(ACX Windows)



第34回公開講座

医学部附属病院

英文名称をHamamatsu University Hospitalに変更しました。

病院の 理念

患者さんの人権を尊重し、地域の中核病院として安全で良質な医療を提供する。
さらに、大学病院として高度な医療を追求しつつ優れた医療人を育成する。

基本 方針

1. 患者さんの意思を尊重した
安心・安全な医療の提供
2. 社会・地域医療への貢献
3. 良質な医療人の育成
4. 高度な医療の追求
5. 健全な病院運営の確立



医学部附属病院(病床数613床)

医療機関の指定状況等

法令等の名称	許可機関名	指定等の年月日
医療法による開設許可(承認)	厚生労働省	昭和 52年 3月 29日
健康保健法による保険医療機関	厚生労働省	昭和 52年 11月 15日
国民健康保険法による保険医療機関	厚生労働省	昭和 52年 11月 15日
老人福祉法による医療機関	厚生労働省	昭和 52年 11月 25日
母子保健法による妊娠乳児健康診断	静岡県ほか一部の地方自治体	昭和 53年 2月 1日
総合病院の名称承認	厚生労働省	昭和 53年 2月 17日
障害者自立支援法による自立支援医療(育成医療)	静岡県	昭和 53年 4月 1日
障害者自立支援法による自立支援医療(更生医療)	静岡県	昭和 53年 4月 1日
戦傷病者特別援護法による医療機関	厚生労働省	昭和 53年 4月 1日
生活保護法による医療機関	厚生労働省	昭和 53年 5月 1日
障害者自立支援法による自立支援医療(精神通院医療)	静岡県	昭和 53年 7月 1日
母子保健法による養育医療	厚生労働省	昭和 53年 7月 22日
労災補償法による医療機関	静岡県労働基準局	昭和 53年 8月 1日
原爆医療法による一般医療	静岡県	昭和 54年 2月 1日
トロトラスト沈着症に対する定期検診の指定医療機関	静岡県	昭和 54年 8月 1日
臨床修練指定病院(外国人医師・外国人歯科医師)	厚生労働省	昭和 63年 3月 29日
消防法による救急医療(救急病院)	静岡県	平成 4年 2月 12日
特定機能病院の名称承認	厚生労働省	平成 7年 3月 1日
エイズ治療の拠点病院	静岡県	平成 8年 3月 19日
地域災害拠点病院	静岡県	平成 8年 12月 26日
結核指定医療機関	厚生労働省	平成 10年 6月 2日
地域周産母子医療センターの指定	静岡県	平成 10年 10月 1日
開放型病院	厚生労働省	平成 17年 5月 1日
地域がん診療連携拠点病院	厚生労働省	平成 19年 1月 31日
難病医療拠点病院	静岡県	平成 19年 4月 1日
治験拠点医療機関	厚生労働省	平成 19年 7月 2日
静岡県肝疾患診療連携拠点病院	静岡県	平成 21年 3月 9日
静岡DMAT指定病院	静岡県	平成 24年 3月 1日

看護体系

区分	看護配置等	届出年月日
一般病棟	特定機能病院 入院基本料 7:1	平成21年5月1日
精神病棟	特定機能病院 入院基本料 13:1 看護補助加算2(50:1)	平成23年7月1日

●探索的臨床研究施設 TEL (053) 435-2006

部長 梅村 和夫

平成14年3月に医学部附属病院に併設された臨床研究専門施設として設立されました。この施設では、早期探索的臨床試験、POC試験、臨床第1相試験、医師主導治験（第1相試験）などを行っています。なお、本施設は、浜松ホトニクス（株）の寄附により発足しました。



●先進医療承認一覧

先進医療の名称	算定開始年月日
難治性眼疾患に対する羊膜移植術	平成18年11月 1日
CYP2C19遺伝子多型検査に基づくテラーメイドのヘリコバクター・ピロリ除菌療法	平成19年 6月 1日
IL28Bの遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価	平成23年 3月 1日
単純疱疹ウイルス感染症又は水痘帯状疱疹ウイルス感染迅速診断（リアルタイムPCR法）	平成23年11月 1日
造血器腫瘍細胞における薬剤耐性遺伝子産物P糖蛋白の測定	平成23年11月 1日
EBウイルス感染症迅速診断	平成24年 2月 1日
神経変性疾患の遺伝子診断	平成24年 7月 1日
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変（MRD）量の測定	平成24年 9月 1日
蛍光膀胱鏡を用いた5-アミノレブリン酸溶解液の経口投与または経尿道投与による膀胱がんの光学的診断	平成24年 9月 1日
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法 原発性乳がん（エストロゲン受容体が陽性であって、HER2が陰性のものに限る。）	平成25年 1月 1日

平成25年4月1日現在

●病院の再整備

医学部附属病院では、「50年先を見据えた病院づくり」をコンセプトに掲げ、①災害に強い病院 ②高度先進医療の提供 ③患者アメニティの充実 ④優れた医療人の育成 ⑤既存施設の有効利用 ⑥地域医療の中核としての役割 ⑦健全な病院経営 を主眼として再整備を実施しています。

第1期再整備は平成22年1月、免震構造を採用した新病棟（地上8階・地下1階建）の開院とともに完了しました。病室やスタッフエリア等、病棟部門の充実を図ったほか、中央診療施設の6部門（手術部、材料部、集中治療部、輸血・細胞治療部、周産母子センター、医療機器管理部）及び薬剤部について機能拡充移転を行いました。

第2期再整備として平成23年3月、外来棟改修工事が着工しました。旧病棟高層階のとりこわしを含む耐震化対策をはじめ、外来部門のリニューアル、第1期に続く中央診療施設等の再配置と拡充、臨床研修のためのシミュレーションセンター整備及び地域連携部門の集約化等、再整備コンセプトを実現するための多岐にわたるプロジェクトが進行し、既にその大半が改修後の新しい環境で稼働しています。この工事は、平成25年7月に完了します。



エントランスホール

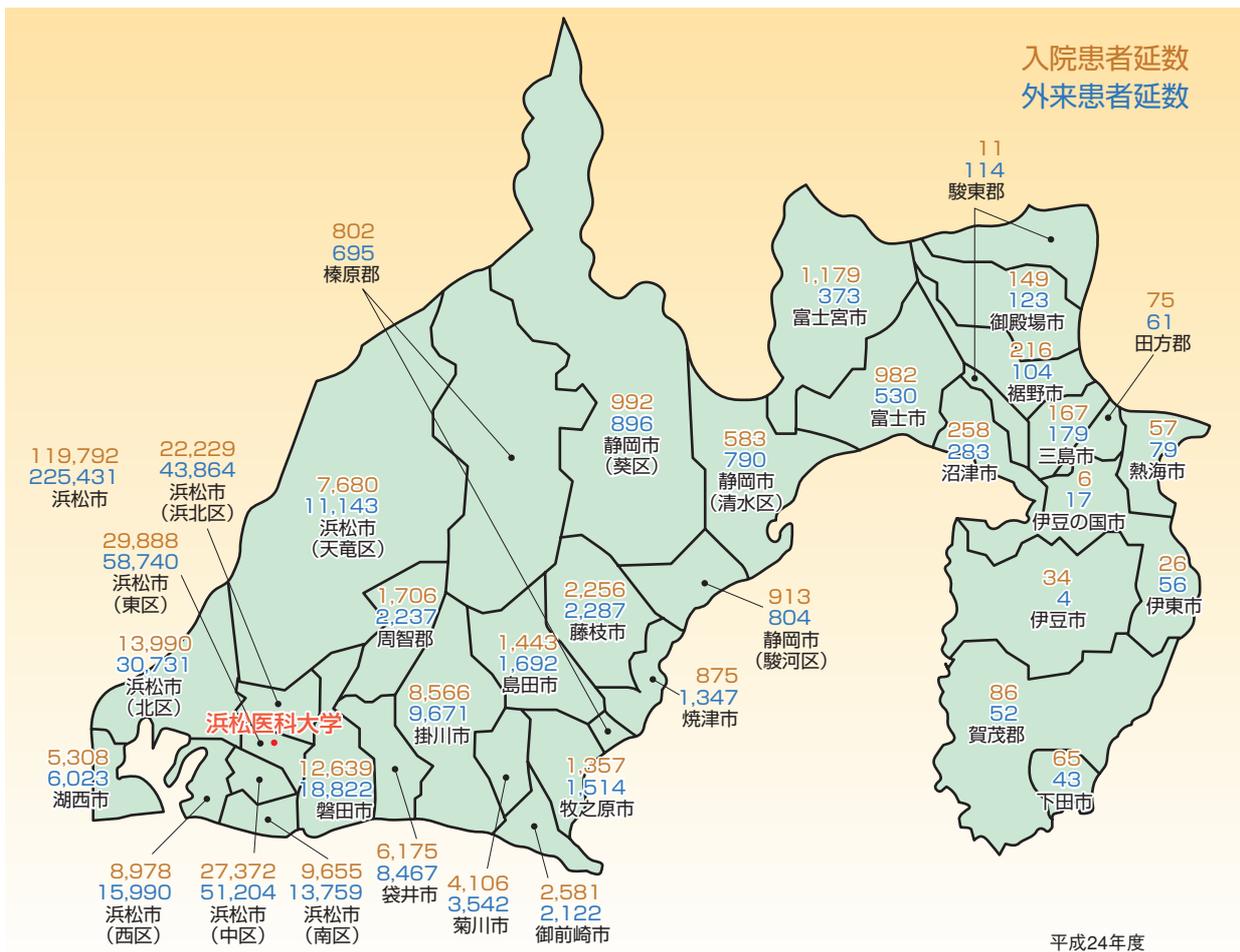


●診療科別患者数

診療科	外来患者		入院患者		
	延数	1日平均数	延数	1日平均数	
内科 共通	-	-	-	-	
第一内科	消化器内科	9,751	40.0	10,133	27.8
	腎臓内科	6,140	25.2	4,607	12.6
	神経内科	3,319	13.6	2,502	6.9
第二内科	内分泌代謝内科	20,301	83.2	2,914	8.0
	呼吸器内科	12,023	49.3	9,813	26.9
	肝臓内科	7,422	30.4	3,205	8.8
第三内科	循環器内科	12,650	51.8	7,121	19.5
	血液内科	9,186	37.6	12,331	33.8
	免疫・リウマチ内科	4,188	17.2	1,715	4.7
臨床薬理内科	734	3.0	135	0.4	
精神科 神経科	18,422	75.5	12,842	35.2	
小児科	14,460	59.3	12,320	33.8	
第一外科	心臓血管外科	2,284	9.4	7,822	21.4
	呼吸器外科	1,406	5.8	2,625	7.2
	小児外科	379	1.6	87	0.2
	乳腺外科	5,582	22.9	653	1.8
	一般外科	1,879	7.7	2,170	5.9
第二外科	上部消化管外科	5,126	21.0	4,958	13.6
	下部消化管外科	4,423	18.1	4,008	11.0
	肝・胆・膵外科	2,730	11.2	4,983	13.7
	血管外科	4,059	16.6	3,188	8.7
救急部	3,749	15.4	1,442	4.0	
光学医療診療部	-	-	-	-	
脳神経外科	7,832	32.1	7,588	20.8	
整形外科	21,214	86.9	15,053	41.2	
リハビリテーション科	4,269	17.5	-	-	
皮膚科	20,933	85.8	3,789	10.4	
泌尿器科	16,970	69.5	9,033	24.7	
眼科	20,316	83.3	5,530	15.2	
耳鼻咽喉科	17,041	69.8	8,275	22.7	
産科 婦人科	17,574	72.0	13,357	36.6	
放射線科	7,454	30.5	2,586	7.1	
麻酔科 蘇生科	2,879	11.8	147	0.4	
形成外科	6,271	25.7	4,369	12.0	
遺伝子診療部	-	-	-	-	
歯科 口腔外科	9,635	39.5	4,518	12.4	
合計	302,601	1240.2	185,819	509.1	

平成24年度

●静岡県内入院・外来患者延数



●都道府県別来院状況

都道府県	外来患者延数	入院患者延数	都道府県	外来患者延数	入院患者延数	都道府県	外来患者延数	入院患者延数
北海道	16	29	石川県	27	76	岡山県	8	0
青森県	30	18	福井県	5	0	広島県	73	26
岩手県	8	0	山梨県	78	75	山口県	15	43
宮城県	28	135	長野県	119	109	徳島県	26	10
秋田県	2	0	岐阜県	242	354	香川県	5	3
山形県	1	0	静岡県	288,358	173,405	愛媛県	3	0
福島県	46	61	愛知県	11,596	8,952	高知県	1	100
茨城県	35	7	三重県	236	151	福岡県	32	11
栃木県	2	0	滋賀県	47	4	佐賀県	0	0
群馬県	34	86	京都府	79	117	長崎県	10	4
埼玉県	93	23	大阪府	96	76	熊本県	0	0
千葉県	160	202	兵庫県	57	126	大分県	11	5
東京都	600	958	奈良県	16	81	宮崎県	4	0
神奈川県	322	365	和歌山県	17	6	鹿児島県	8	14
新潟県	13	5	鳥取県	22	139	沖縄県	13	43
富山県	4	0	島根県	3	0	合計	302,601	185,819

平成24年度

臨床検査件数(院内検査)						
検査項目	一般検査	血液学的検査	生化学的検査	病理学的検査	生理機能検査	採血・採液等
件数	107,495	300,321	2,238,719	14,624	174,569	83,938
検査項目	内分泌学的検査	免疫学的検査	微生物学的検査	内視鏡検査	その他	合計
件数	61,723	295,717	27,133	10,260	36,684	3,351,183

平成24年度

手術件数及び麻酔件数					
手術件数	5,624				
	うち内視鏡手術 593				
麻酔件数	全身麻酔	局所麻酔	脊椎・硬膜外麻酔	その他	合計
	3,663	1,547	239	175	5,624



平成24年度

X線撮影及び透視件数						
区分		X線直接撮影	X線透視	CT	MRI	合計
患者数	入院	35,825	1,738	6,590	2,411	46,564
	外来	33,925	3,798	11,969	6,431	56,123
	合計	69,750	5,536	18,559	8,842	102,687

平成24年度

病理解剖件数			
区分	男	女	合計
死亡患者数	193	113	306
病理解剖件数	9	9	18
剖検率(%)	4.7	8.0	5.9
受託解剖件数	2	1	3

平成24年度



3T MRI装置

分娩件数								
区 分	正常出生 体重児(人)	低出生体重児(人)					巨大児(人)	計(人)
		500g未満	500g~ 1,000g未満	1,000g~ 1,500g未満	1,500g~ 2,000g未満	2,500g未満	4,000g以上	
経 膣 分 娩	438	1			10	39	2	490
吸 引 分 娩	47					2	1	50
鉗 子 分 娩								0
予定帝王切開	80		1	1	2	19	1	104
緊急帝王切開	32	1	1	3	10	13	2	62
その他								0
計(総分娩件数)	597	2	2	4	22	73	6	706
死産(内数)	0	1						1

平成24年度

薬剤件数				
調 剤 薬			注 射 薬	
院内外来処方箋	院外処方箋	入院処方箋	外来注射箋	入院注射箋
5,736	157,180	107,551	48,295	148,746

平成24年度

救急患者数							
疾 病	来 院 原 因 別					妊 娠	合 計
	傷 病				計		
	事 故						
	交 通	中 毒	その他				
6,147	356	94	1,089	1,539	562	8,248	

平成24年度



シミュレーションセンター



ドクターヘリを利用した医療活動

外部資金受入れ状況

科学研究費補助金		
研究種目	件数	交付額(単位:千円)
新学術領域研究	8	107,120 (24,720)
基盤研究(A)	2	21,580 (4,980)
基盤研究(B)	20	113,360 (26,160)
基盤研究(C)	95	147,550 (34,050)
挑戦的萌芽研究	32	52,000 (12,000)
若手研究(S)	1	20,800 (4,800)
若手研究(A)	1	5,850 (1,350)
若手研究(B)	51	72,930 (16,830)
研究活動スタート支援	4	5,590 (1,290)
特別研究員奨励費	2	1,900
奨励研究	4	2,400
合計	220	551,080 (126,180)

※()は間接経費を内数で示す
平成24年度
平成23年度中の研究者の転入、転出及び経費の繰越承認に伴う増減は含まない

厚生労働科学研究費補助金	
件数	金額(単位:千円)
13	164,322 (23,018)

※()は間接経費を内数で示す
平成24年度
年度中の研究者の異動及び経費の繰越承認に伴う増減を含まない

奨学寄附金		
区分	件数	金額(単位:千円)
一般	609	575,969
助成金	30	95,977
合計	639	671,946

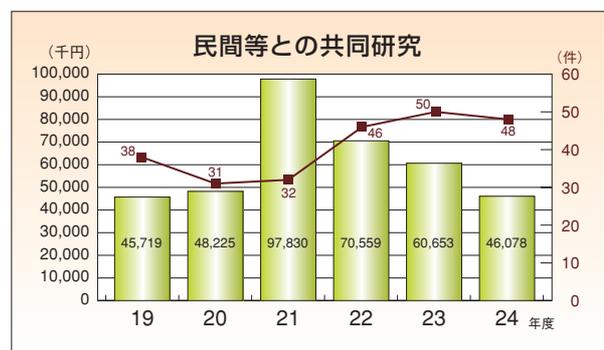
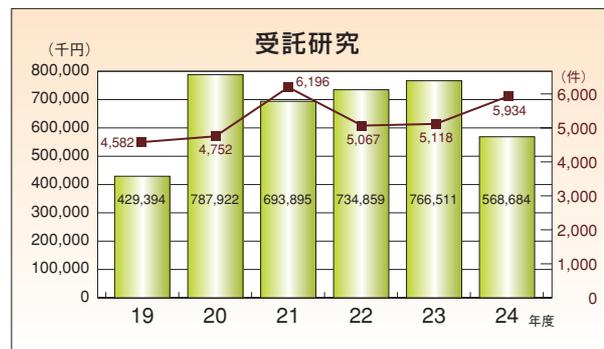
平成24年度

受託研究		
区分	件数	金額(単位:千円)
一般	70	348,072
治験	265	187,694
病理組織検査	5,599	32,918
合計	5,934	568,684

平成24年度

民間等との共同研究	
件数	金額(単位:千円)
48	46,078

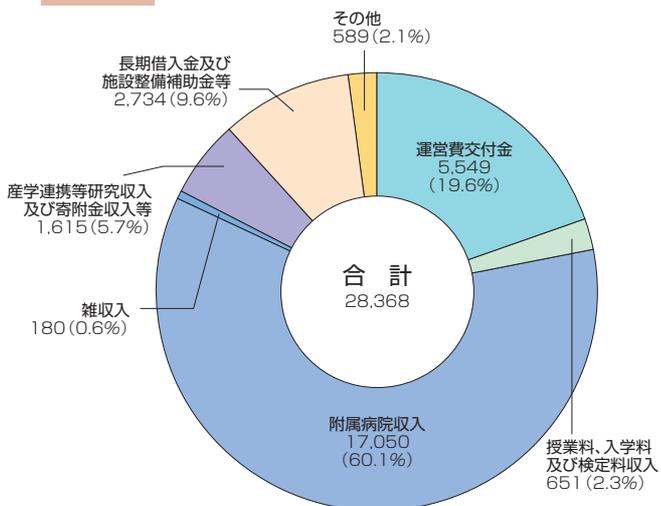
※共同研究員費を含む
平成24年度



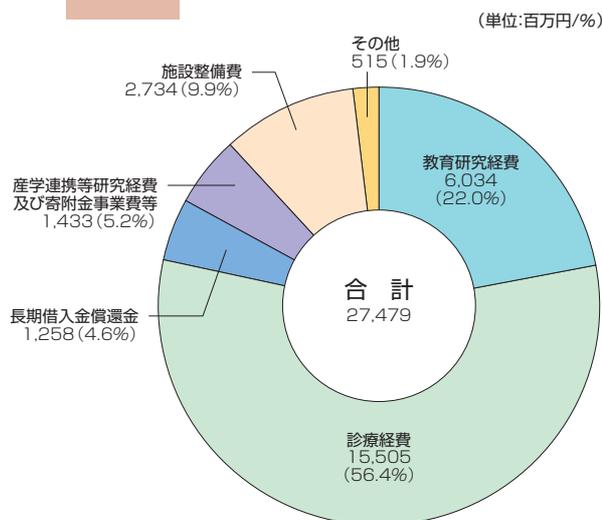
財務、土地及び建物

●平成24年度決算額

収入



支出



●土地及び建物

区分 口座	土地	建物		備考
		建面積	延面積	
本部	265,154 m ²	9,908 m ²	21,953 m ²	管理棟、職員会館、福利施設棟、体育館、課外活動施設棟、エネルギーセンター、武道館、附属図書館、国際交流会館、弓道場、保育所、立体駐車場(職員用)、その他
医学部		7,963	38,062	講義実習棟、基礎臨床研究棟、基礎臨床研究棟別館、臨床講義棟、RI動物実験施設、看護学科棟、メディカルフォトリクス研究センター、その他
附属病院		16,364	69,231	附属病院、MRI-CT装置棟、中央診療棟、PET-CT棟、立体駐車場(患者用)、サイクロトロン棟、その他
看護師宿舎		1,419	5,526	医大舟岡山宿舎 2棟 129戸 〔構造RC-規格a 94戸 構造RC-規格b 35戸〕
職員宿舎(二)		897	3,313	医大半田山宿舎 3棟 60戸 〔構造RC-規格c 10戸 構造RC-規格b 50戸〕
職員宿舎(一)		35,408	3,845	医大宿舎 11棟 198戸 〔構造RC-規格c 188戸 構造RC-規格b 10戸〕 学長宿舎 1棟 1戸 (構造W-規格e)
佐鳴台宿舎(一)		365	106	副学長宿舎 1棟 1戸 (構造W-規格e)
佐鳴台宿舎(二)		707	207	副学長宿舎・事務局長宿舎 2棟 2戸 (構造W-規格e)
三ヶ日艇庫		502	114	艇庫
合計	302,136	40,823	152,265	

平成25年5月1日現在

配置図

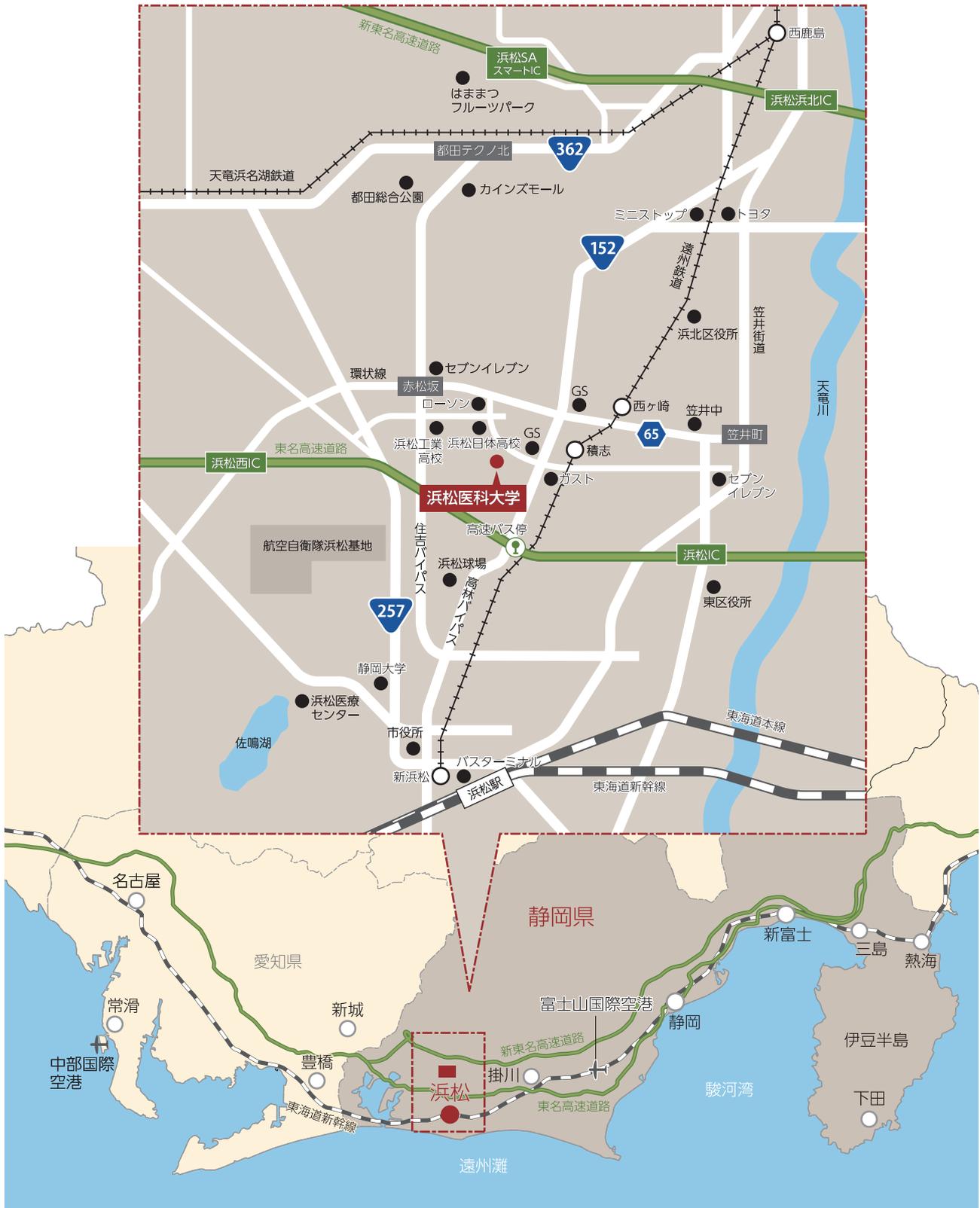


施設名称	
① 管理棟(事務局)	⑮ 体育館
② 附属病院	⑯ 武道館
③ 臨床講義棟	⑰ 弓道場
④ 探索的臨床研究施設	⑱ プール
⑤ 産学官共同研究センター PET-CT棟	⑲ テニスコート
⑥ 看護学科棟	⑳ サッカー・ラグビーグラウンド
⑦ 基礎臨床研究棟別館	㉑ 野球場
⑧ 基礎臨床研究棟	㉒ 医療廃棄物処理センター
⑨ 動物実験施設	㉓ 国際交流会館
⑩ 講義実習棟	㉔ 医大宿舎
⑪ 福利施設棟	㉕ 慰霊塔
⑫ 附属図書館	㉖ 医大舟岡山宿舎
⑬ メディカルフォトンクス研究センター	㉗ 医大半田山宿舎
⑭ 産学官共同研究センター サイクロトロン棟	㉘ 半田山会館

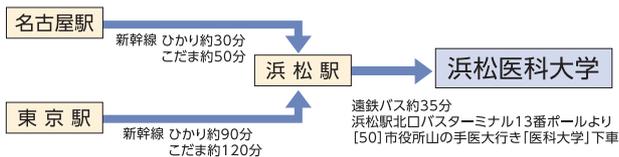
関連教育病院

名称	浜松医療センター
所在地	〒432-8580 浜松市中区富塚町328番地
病床数	606 (一般 600、感染症 6)

案内図

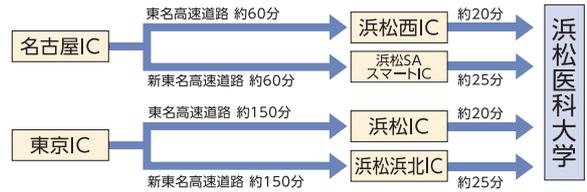


交通(新幹線・バス)



※ひかりは一部のみ浜松駅停車

自動車





国立大学法人
浜松医科大学

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山一丁目20番1号
TEL.053-435-2111 (代)
<http://www.hama-med.ac.jp/>



UNIVERSITY
ACCREDITED
Mar.2008

学校教育法第109条第2項の規定に基づき、
平成19年度に独立行政法人大学評価・学位授与機構による
「大学機関別認証評価」を受審し、
「大学評価基準を満たしている」と認定されました。